

愛称：トリプル維新ファンド（安定タイプ） / （成長タイプ）

追加型投信 / 内外 / 資産複合

信託期間：無期限

決算日：毎年6月23日（休業日の場合翌営業日）

基準日：2022年4月28日

安定タイプの運用状況

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

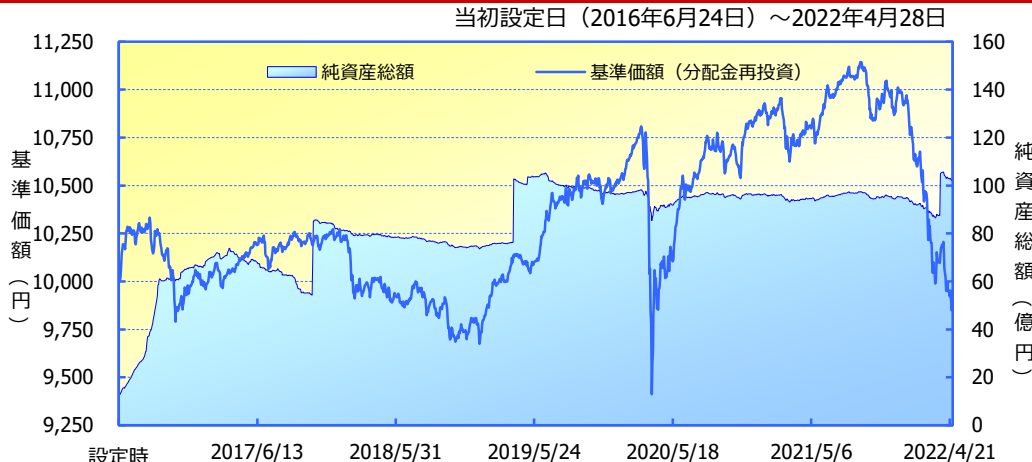
「基準価額・純資産の推移」

2022年4月28日現在

基準価額	9,870 円
純資産総額	101億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1か月間	-3.0 %
3か月間	-6.9 %
6か月間	-10.1 %
1年間	-8.7 %
3年間	-2.3 %
5年間	-2.4 %
年初来	-10.0 %
設定来	-1.3 %



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額（分配金再投資）」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「分配の推移」

(1万口当たり、税引前)

決算期（年/月）	分配金
第1期 (17/06)	0円
第2期 (18/06)	0円
第3期 (19/06)	0円
第4期 (20/06)	0円
第5期 (21/06)	0円
分配金合計額	設定来：0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

「主要な資産の状況」

※比率は、純資産に対するものです。

組入ファンド別構成		通貨別構成	
ファンド名	比率	通貨	比率
国内株式ファンド	3.1%	日本円	90.4%
先進国株式ファンド	3.0%	米ドル	9.2%
新興国株式ファンド	3.0%	ユーロ	0.3%
国内REITファンド	4.9%	豪ドル	0.3%
先進国REITファンド	4.7%	英ポンド	0.2%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	53.5%	シンガポール・ドル	0.1%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	26.6%	カナダ・ドル	0.1%
コールローン、その他	1.0%	香港ドル	0.0%
		イスラエル・シケル	0.0%
		その他	0.0%
合計	100.0%	合計	100.0%

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

「ファンドマネージャーのコメント」

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】

ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。

【パフォーマンス】

4月は、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官から積極的な金融引き締めに関する発言が相次ぐ中で、米国をはじめとして各国で金利が上昇したことを受け、新興国債券（為替ヘッジあり）ファンドや先進国債券（為替ヘッジあり）ファンドが大きく下落したことから、ファンド基準価額は下落しました。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書（交付目論見書）を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。8ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

設定・運用



商号等

加入協会

ワイエムアセットマネジメント

ワイエムアセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号  
一般社団法人投資信託協会

# 安定タイプの運用状況

## 組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

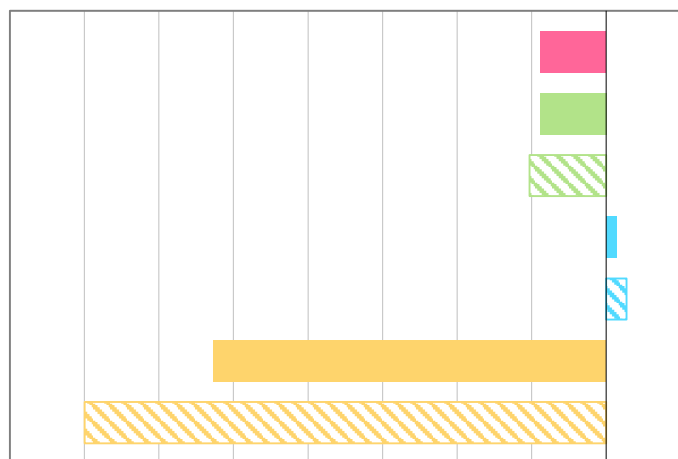
投資信託証券（ファンド名）	運用会社名	主な投資方針	騰落率			
			1か月間	3か月間	6か月間	設定来
国内株式ファンド	大和アセットマネジメント	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-5.4%	+0.3%	-5.6%	+75.8%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-5.6%	+5.8%	+2.2%	+151.5%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-6.4%	-2.2%	-8.1%	+77.7%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+0.6%	+4.0%	-2.2%	+43.1%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+0.9%	+16.6%	+13.7%	+77.8%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	-2.0%	-6.6%	-8.3%	-5.9%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	-5.2%	-15.5%	-19.6%	-15.0%

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

## 基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

2022年4月末の基準価額	9,870 円
2022年3月末の基準価額	10,172 円
変動額	▲302 円
内訳	合計
国内株式ファンド	▲18 円
先進国株式ファンド	▲18 円
新興国株式ファンド	▲21 円
国内REITファンド	3 円
先進国REITファンド	5 円
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	▲105 円
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	▲140 円
小計	▲293 円
分配金	0 円
信託報酬、その他	▲9 円



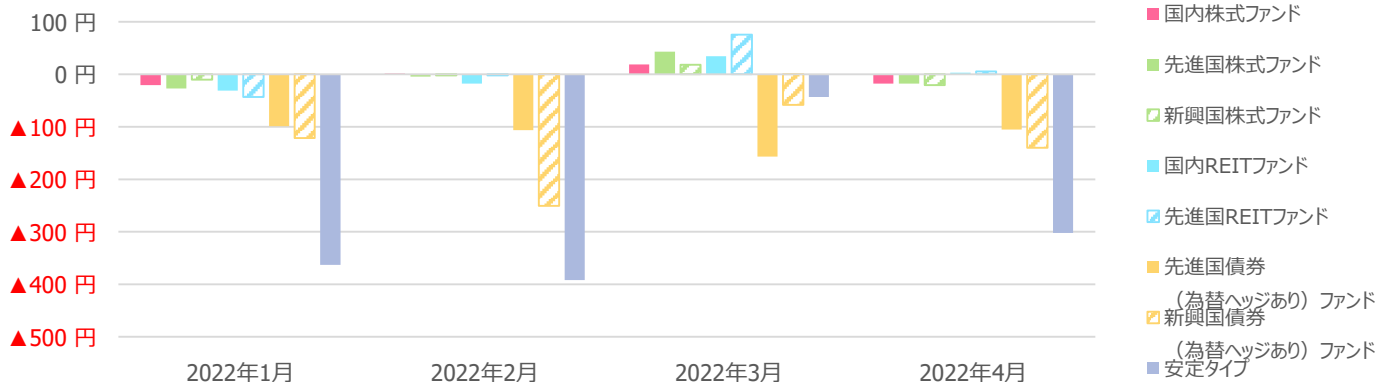
▲160 円 ▲140 円 ▲120 円 ▲100 円 ▲80 円 ▲60 円 ▲40 円 ▲20 円 0 円 20 円

※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

## 基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



愛称：トリプル維新ファンド（安定タイプ） / （成長タイプ）

追加型投信 / 内外 / 資産複合

信託期間：無期限

決算日：毎年6月23日（休業日の場合翌営業日）

基準日：2022年4月28日

成長タイプの運用状況

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

「基準価額・純資産の推移」

2022年4月28日現在

基準価額	12,212 円
純資産総額	32億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1か月間	-2.8 %
3か月間	-2.4 %
6か月間	-6.2 %
1年間	-2.8 %
3年間	+9.1 %
5年間	+14.1 %
年初来	-6.7 %
設定来	+22.1 %



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額（分配金再投資）」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「分配の推移」

(1万口当たり、税引前)

決算期 (年/月)	分配金
第1期 (17/06)	0円
第2期 (18/06)	0円
第3期 (19/06)	0円
第4期 (20/06)	0円
第5期 (21/06)	0円

分配金合計額 設定来：0円

※分配金は、収益配分方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合があります。

「主要な資産の状況」

※比率は、純資産に対するものです。

組入ファンド別構成

ファンド名	比率
国内株式ファンド	8.2%
先進国株式ファンド	7.9%
新興国株式ファンド	7.9%
国内REITファンド	12.6%
先進国REITファンド	12.1%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	33.7%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	16.6%
コールローン、その他	1.0%
合計	100.0%

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

通貨別構成

通貨	比率
日本円	72.8%
米ドル	23.8%
ユーロ	1.6%
豪ドル	0.8%
英ポンド	0.6%
シンガポール・ドル	0.4%
カナダ・ドル	0.4%
香港ドル	0.1%
ブラジル・リアル	0.0%
その他	0.0%
合計	100.0%

「ファンドマネージャーのコメント」

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】

ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。

【パフォーマンス】

4月は、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官から積極的な金融引き締めに関する発言が相次ぐ中で、米国をはじめとして各国で金利が上昇したことを受け、新興国債券（為替ヘッジあり）ファンドや先進国債券（為替ヘッジあり）ファンドが大きく下落したことから、ファンド基準価額は下落しました。

# 成長タイプの運用状況

## 組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

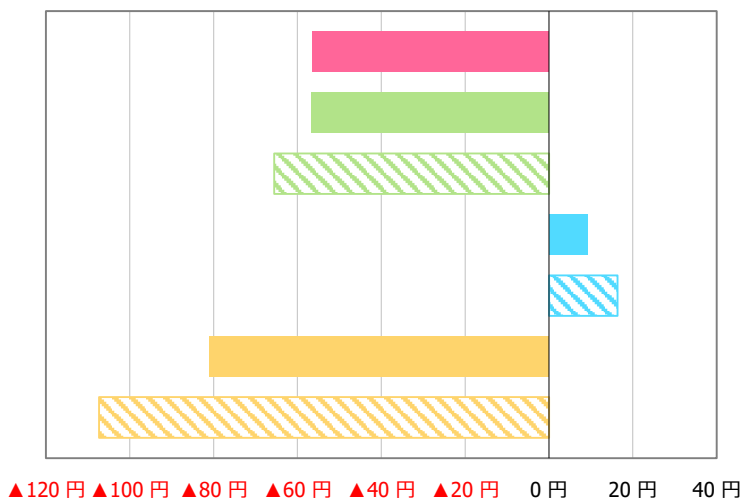
投資信託証券（ファンド名）	運用会社名	主な投資方針	騰落率			
			1か月間	3か月間	6か月間	設定来
国内株式ファンド	大和アセットマネジメント	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行います。	-5.4%	+0.3%	-5.6%	+75.8%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行います。	-5.6%	+5.8%	+2.2%	+151.5%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行います。	-6.4%	-2.2%	-8.1%	+77.7%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行います。	+0.6%	+4.0%	-2.2%	+43.1%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行います。	+0.9%	+16.6%	+13.7%	+77.8%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行います。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。	-2.0%	-6.6%	-8.3%	-5.9%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行います。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。	-5.2%	-15.5%	-19.6%	-15.0%

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

## 基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

2022年4月末の基準価額	12,212 円
2022年3月末の基準価額	12,565 円
変動額	▲353 円
内訳	合計
国内株式ファンド	▲56 円
先進国株式ファンド	▲57 円
新興国株式ファンド	▲66 円
国内REITファンド	9 円
先進国REITファンド	16 円
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	▲81 円
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	▲107 円
小計	▲341 円
分配金	0 円
信託報酬、その他	▲12 円

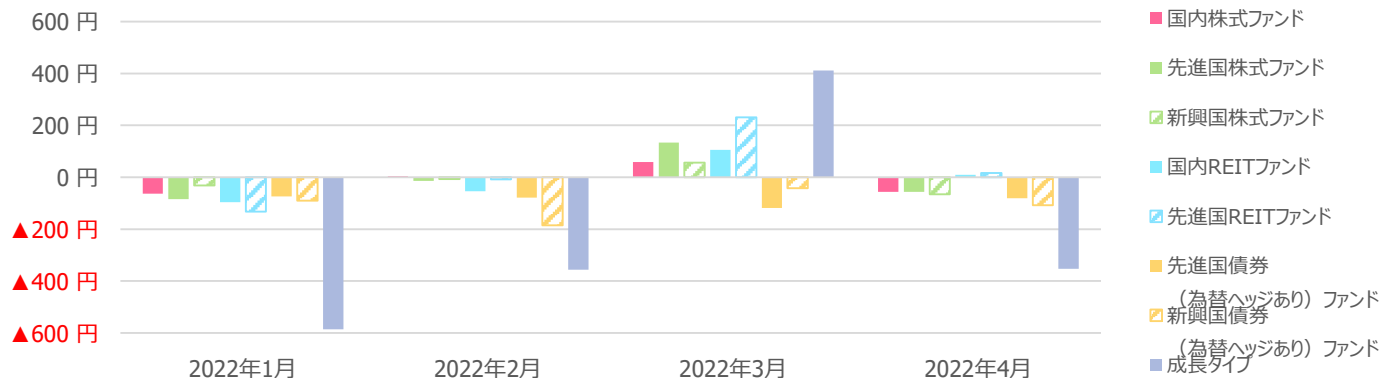


※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

## 基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



(国内株式)

国内株式市場は下落しました。上旬は、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官発言がタカ派的と評価されたことや、欧米によるロシアへの制裁強化の影響も懸念され、下落しました。中旬に発表された3月の米消費者物価指数が市場予想を下回ると、一時的に米国のインフレ懸念が後退する局面もありましたが、その後もFRB高官の利上げに積極的な発言が相次いだことで、株価は上値の重い状態が続きました。

(先進国株式)

先進国株式市場は下落しました。FRB高官から利上げペースを加速させるとの発言が相次いだことに加えて、ECB（欧州中央銀行）高官も早期の利上げ開始に言及したことで、利上げによる景気の悪化が懸念され、株価は月を通じて軟調に推移しました。なお、米国の一部主要銘柄が市場予想を下回る決算を発表したこともあり、欧州株よりも米国株の下落率が大きくなりました。

(新興国株式)

新興国株式市場は下落しました。株式市場は、一進一退の展開で始まりまし。その後は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う上海における都市封鎖の長期化を受け、中国景気の悪化が懸念される中、弱含みまし。月半ば以降も、人民元の対米ドルでの下落を受けた資金流出懸念や北京市の都市封鎖懸念から、中国を中心に下げ幅を拡大しました。

(国内リート)

国内リート市場は横ばいの展開となりました。米国金融政策の引き締めペース加速観測を背景に米国長期金利が上昇、株式市場が調整するなか、株式に比べ底堅い推移となりました。4月の日銀金融政策決定会合では、緩和姿勢継続が強調され、一部の投資家が期待していた緩和修正観測は後退し、日本の長期金利が月末に低下したことも国内リート市場にはプラスに寄与したとみられます。

(先進国リート)

先進国リート市場は横ばいの展開となりました。前半は、米金融当局の利上げや今後の量的緩和縮小方針が意識され、金利が上昇したことを受けて低調な推移となりました。後半は、産業施設銘柄の良好な決算などが好感されいったん反発するも、月末にかけては金融引き締めの加速懸念などからリスクオフの展開となる中で、リートも軟調に推移しました。

(先進国債券)

先進国債券市場は下落（金利は上昇）しました。米国では、FRB高官から積極的な金融引き締めを支持する発言が相次いだことなどから、金利は上昇しました。他の国も、米国の金利上昇に連れた動きとなり、金利は上昇しました。また、商品市場の高騰によるインフレ期待の高止まりも金利上昇要因となりました。

(新興国債券)

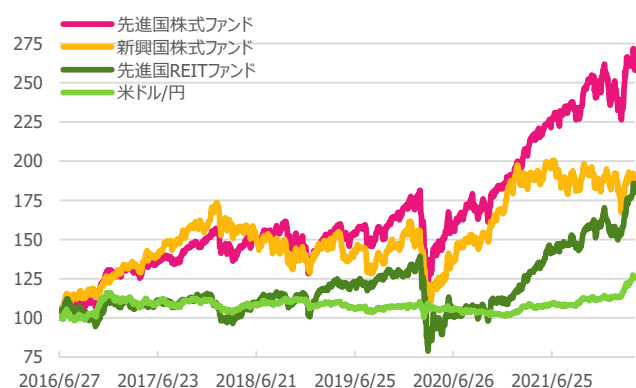
米ドル建て新興国債券に関しては、米国で金融引き締めが意識されたことでスプレッド（米国債との利回り格差）は拡大しました。特に、ロシアの侵攻が続いているウクライナのスプレッドは大きく拡大しました。

(為替)

為替市場では、米国で早期の金融政策正常化が意識されたことから米国金利が上昇し、米ドルは強含んで推移しました。一方で、日銀は金融緩和姿勢を継続したことから、金融政策の相違が意識され、米ドルは対円で大幅に上昇しました。豪ドルは、米ドルが強含んで推移したことから対米ドルで軟調な推移となり、対円ではおおむね横ばいとなりました。

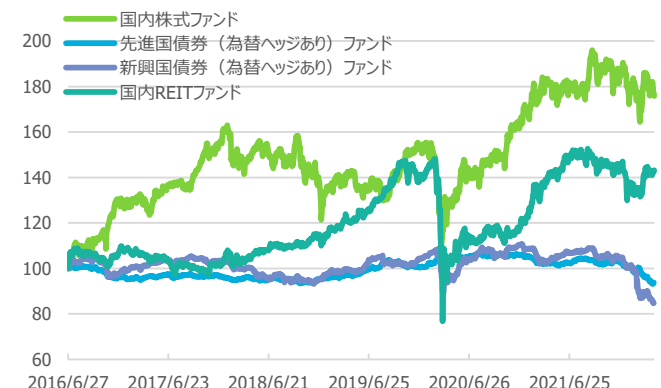
新興国通貨は、対円で上昇しました。各国で金利が上昇したことから円に対して上昇して推移しました。

組入ファンド（為替ヘッジなし）と為替の価格の推移



※ファンド設定日を基準として指数化しています。

組入ファンド（為替ヘッジありおよび国内資産）の価格の推移

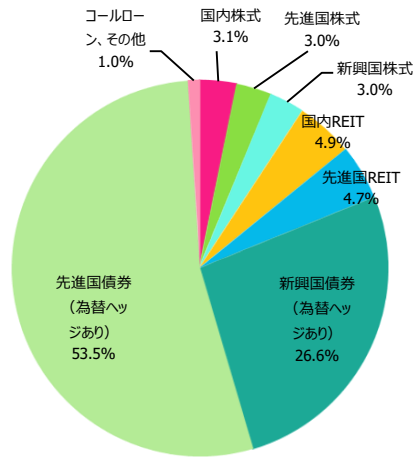




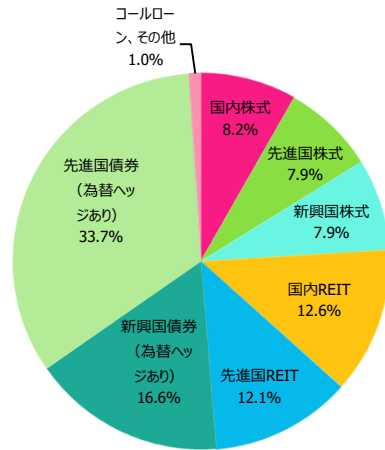
# 「各コースの資産・通貨別構成と基準価額の比較」

## 資産別組入ファンド比率（純資産比）

安定タイプ



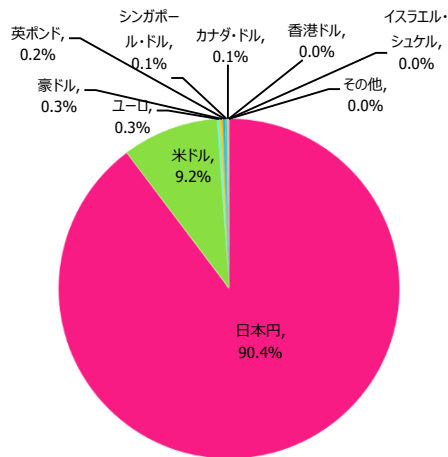
成長タイプ



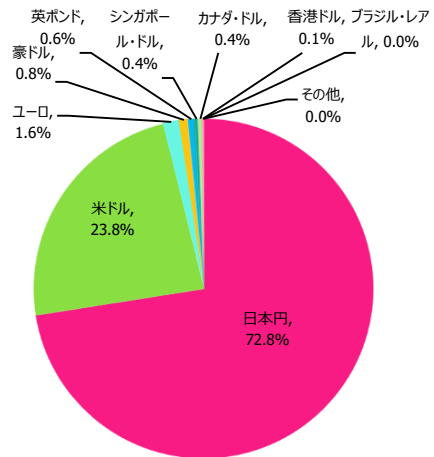
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

## 通貨別構成（純資産比）

安定タイプ



成長タイプ



※大和アセットマネジメントのデータを基にワイエムアセットマネジメントが計算しています。

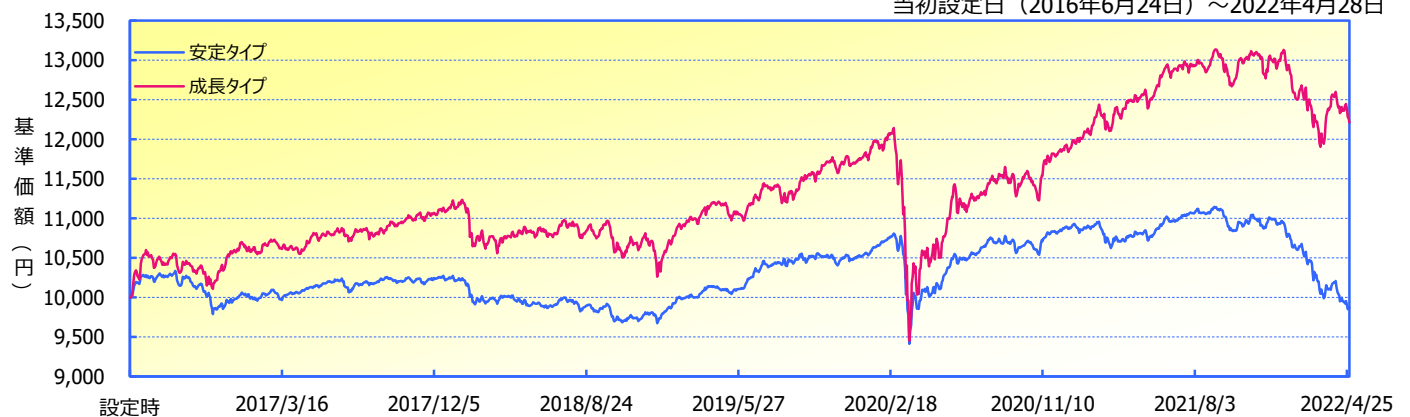
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

## 基準価額（分配金再投資）の比較

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

当初設定日（2016年6月24日）～2022年4月28日



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

## 「ファンドの目的・特色」

### ファンドの目的

- 内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資し、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

### ファンドの特色

1. 複数の投資信託証券への投資を通じて、主として内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資します。
2. 各資産への投資比率が異なる「安定タイプ」と「成長タイプ」の2つのタイプから選択できます。
3. 山口フィナンシャルグループの運用会社であるワイエムアセットマネジメント株式会社がファンド運用を行ないます。
4. 内外の債券、株式およびリートを実質的な投資対象とする複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。

・各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。  
 YM アセット・バランスファンド（安定タイプ）：「安定タイプ」  
 YM アセット・バランスファンド（成長タイプ）：「成長タイプ」  
 ・各ファンドの総称を「YM アセット・バランスファンド」とします。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

## 「投資リスク」

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動、リートの価格変動）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

## 「ファンドの費用」

お客さまが直接的に負担する費用		
購入時手数料	ありません。	
信託財産留保額	ありません。	
お客さまが信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用 （信託報酬）	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して次に掲げる率	
	安定タイプ	成長タイプ
	年率 1.1275%（税込）	年率 1.2375%（税込）
	投資対象とする 投資信託証券	年率 0.209%（税込）～年率 0.330%（税込）
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.406%程度（税込）*	年率 1.510%程度（税込）*
その他の費用・ 手数料	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただけます。 ※「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。	

\* 実際の組入状況等により変動します。

※手数料等の合計金額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

## 「当資料のお取り扱いにおけるご注意」

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメント株式会社により作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡す「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

- ▶ ワイエムアセットマネジメント株式会社  
083-223-7124（営業日の9:00～17:00）
- ▶ 当社ホームページ  
▶ <http://www.ymam.co.jp/>

## 「販売会社」

販売会社（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業 協会
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第117号	○	○	
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第12号	○	○	
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第6号	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○		

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。